

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572807105		
法人名	羽後町		
事業所名	グループホームやまびこ		
所在地	秋田県雄勝郡羽後町下仙道字風平97-1 (電話) 0183-58-7620		
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団		
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5-1-1		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年3月21日

【情報提供票より】 (21年2月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤9人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,400 円	その他の経費(月額)	光熱水費 1日120円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要 (2月6日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84歳	最低	78歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	町立羽後病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自治体が運営するホームであり、棟続きにある地域交流スペースでは、地域行事が頻繁に行われ、入居者の憩いの場となっている。
職員にも心のゆとりがなければ、穏やかなケアは提供できないという観点から、日々の職員も手厚く配置している。そのため、入居者への対応はもちろん、職員間の関係も良好で、生き活きとした表情でケアを提供している。
また、退居者も少なく、入居者・家族との信頼関係も厚いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 救命救急の講習等は、行われておらず、職員の力量に任せられていたが、AED導入をきっかけに、全職員が受講できるよう、研修を予定している。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価に取り組み、現状を認識した上で評価を活かした取組みができるよう、職員間で話し合いをしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者家族・地域住民・地域包括支援センター職員がメンバーとなって、2ヶ月に1回開催している。グループホームを知ってもらうことから始まり、現在は、会議で出された意見を取り入れた運営に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情受付窓口の設置等により、気軽に意見や苦情等を伝えられる仕組みが整っている。これまで苦情はなかったが、日ごろから意見や苦情を表出しやすい関係作りに努めている。 また、年4回入居者ごとに個別のたよりを送付し、日々の生活状況を伝えている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームと棟続きになっている地域交流センターを開放し、地域行事や、保育園・小中学校の行事、ボランティアの受け入れ等を活発に行っており、地域との交流は盛んである。

2. 評価報告書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の感情表現を基本とした「喜怒哀楽」を理念に掲げ、気兼ねなく感情表出できる暮らしを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念実現のためにそれぞれが自己研鑽に努め、ケアの提供にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームと棟続きになっている地域交流センターを開放し、地域行事や、保育園・小中学校の行事、ボランティアの受け入れ等を活発に行っており、地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で話し合い、現状認識や課題の共有化が図られており、評価を活かした取組ができるよう積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地域住民、地域包括支援センター職員などから構成され、2ヶ月に1回開催されている。会議での話し合いは、外部からの貴重な意見として捉え、意見や質問については、気付きを持って質の向上に反映できるよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、自治体の運営であり、密接な関わりを持ちながらサービスの向上を目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の報告はもちろん、1年に4回、入居者ごとに一人ひとり違う内容で、写真や生活状況を掲載した便りを送付している。その際、金銭の収支報告書も同封し、確認を得ている。		家族からお小遣い等の金銭を預かった場合は、書面にて金額等を確認しているが、家族へも預り証を交付するなど、より明確な確認方法を検討されることを希望する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口の設置等により、気軽に意見や苦情等を伝えられる仕組みが整っている。これまで苦情はなかったが、面会時に家族と積極的にコミュニケーションを取ることで、日ごろから意見や苦情を表出しやすい関係作りに努めており、運営にも反映できる体制にある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動による入居者への影響を考慮し、職員、入居者相互のサポートをするなど、十分な配慮に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、職員の希望をふまえながら、できる限り受講できるよう配慮している。研修内容は、職員全員で共有化を図り、働きながらの職員育成がされている。		研修の受講のみならず、日々の業務の中でも、より良いケアに向けて取り組んでいる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は、一部の職員に限られているものの、地域の協議会等への入会を検討しており、相互刺激を受けられる関係作りに向け、検討している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況把握を十分に行い、慣れるまで職員が付いてケアにあたっている。必要に応じて家族からの協力を得たり、柔軟な対応により安心して生活できるような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、畑仕事や家事、植物の手入れなど、利用者が長年培ってきた経験にふれながら、一緒に過ごしている。日常の何気ない生活で、利用者から学ぶことは多く、相互に支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりや豊かな会話からの聴取、面会者からの情報収集等を通して、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、利用者本人・家族等との日ごろの関わりの中から、引き出した思いや個々の心身の状況を共有し、十分な話し合いの下、日中・夜間と、時間帯を分けた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて、定期的に見直しがされている。また、個々の状況に変化があった場合は、話し合い、柔軟な対応をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	棟続きの地域交流スペースで行われる、子供の行事や地域行事へ参加するなど、身近に地域生活に溶け込めるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれの馴染みの主治医から、医療を受けられるよう支援している。また、協力医療機関が時間外でも柔軟に対応してくれるなど、協力体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	長年ホームで生活してきた方が重度化した場合について、職員、家族、かかりつけ医などの関係者で話し合い、本人・家族等の意向を優先した方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いやプライバシーについては、職員であることの自覚を促し、本人や家族の立場になって考えるよう指導している。また人格を尊重し、個々に応じた声かけを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者との時間を確保するため、適宜業務改善に取り組み、利用者のペースを大切にすることを重点においた支援をしている。職員は、更に改善できる要素がないか、意識しながらケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、支度や後片付けを一緒に行っている。身体状況の低下があっても、食品の形状を崩さない調理法により、利用者が視覚的にも満足できるよう配慮されている。和やかな会話や雰囲気の中、温かい食事が提供され、楽しい時間となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	健康状態を把握した上で、個々の意向にあわせた時間や頻度で、いつでも入浴できるような体制となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦等の把握に加え、日ごろの関わりから、一人ひとりの得意分野を引き出し、役割等を認めることで、喜びやハリのある生活を送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回、食材の買い物や、入居前に住んでいた家、墓参り、大型ショッピングセンターへ出掛けるなど、個別の希望に応じた外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は自由に出入りできるようになっている。外出しようとする入居者には、職員が付き添うなど、鍵をかけないケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力の下、防災訓練を実施している。また、AED導入に伴い、職員全員が受講できる研修を行う予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の把握については、チェック表を作成し、体重測定も含めた状況把握がされている。献立は、月1回併設施設の栄養士の指導を受け、季節感のあるメニューや、カロリーに配慮して作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の動線や目線に合わせて、随所に細やかな配慮がされている。また、季節感のある装飾や採光等にも気を配り、ホーム内の至るところで、落ち着いて思い思いに過ごせるよう、空間の確保がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを設置したり、壁に好みのものを貼るなど、入居者の個性があり、心地よく生活できる居室となるよう工夫されている。		

※ は、重点項目。